

なめてくる

バカ

kurosaka takeo

黒坂岳央

を黙らせる技術

人からなめられているかどうかを気にするのは、なんだかめんどくさい人のように思える。小さなプライドにとらわれているみたいで、器うつわの小さな人にも感じられる。

そんなふうに考える人は少なくないだろう。

だが、人からなめられているかどうかを気にするのはプライドの問題でなければ、快・不快の気分の問題でもない。

仕事・人間関係・人生すべての効率のよさを左右する、いわば人生のコスパの問題だ。

言ってしまうえば、なめられているとコスパの悪い人生を歩むことになり、取り返しがつかないほど損をするのだ。

世の中、なめてくるバカは無数にいる。SNSにも、職場にも、海外にも、そしてあなたの身近にも。

友人のふりをしていることもある。

そして損をするのは、いつだってなめられている側だ。

なめられている側は、知らず知らずのうちに、面倒ごとを押しつけられ、時間とお金を奪われ、人間関係を傷つけられ、自尊心さえも台無しにされてしまう。

今すぐに、なめてくるバカを黙らせる技術を身につけ、奪われた人生を取り戻そう。

「なめてくる」「バカ」「黙らせる」といった強い言葉をタイトルに使っているので、驚いたかもしれないが、安心してほしい。この本の主張はやさしく、合理的で、シンプルだ。

なめられると人生で損をする

端的に言えば、これである。

「なめられる」といっても、どこか平和な人間関係があつて、なめる側もなめられる側も仲がよい、そんなイメージを持っている人もいるかもしれない。だが、それはな

められているのではない。親しまれているだけだ。本当になめられてしまうと、その損失は計り知れない。

ビジネスはうまくいかず、浅い人間関係しか築けず、もちろん恋愛も失敗する。なめてくるやつらにいいように利用され、人生そのものを台無しにされてしまうのだ。

少し長くなるが、私がそう結論づけるにいたった、自分自身のエピソードを書いておきたい。

いじりに対応できず 転落人生

私は中学生の頃、いじめの標的にされていた。きっかけは、クラスのリーダー格の男に、軽いジャブ程度のいじりを受けたときだった。

「お前、なんかしゃべり方変じゃない？」

そんな軽口程度のものであったので、そのときはつきりと「やめる」と言えばよかったのだが、トラブルをおそれた私はヘラヘラ笑ってその場をごまかした。だがその瞬間、私が弱者であることを見透かされた。

翌日から、こづかれたり、バカにされたりして、周囲のクラスメイトを巻きこんだいじめの日々が始まったのだ。

今でもはつきりと覚えている出来事がある。母親が早朝から作ってくれた弁当にいたずらをされたのだ。弁当を開けると、箸でグサグサと刺された跡があった。

母は、食えるときに心がホッとしますようにと、海苔などでご飯に顔を描いてくれたのだが、その心を踏みにじられた気がした。このときはあまりの悔しさに耐えられず、教室で号泣してしまった。

いじめを受けていたのもあって、勉強にもつまずき、成績は落ちる一方だった。そ

うして逃げるようにゲームにハマり、やがて私は不登校となった。

そんな生活を送っていたため、受験もうまくいかず、当時の私の学力では、治安悪め、暴力多め、地元の大阪でもっとも偏差値が低い底辺工業高校に進学するしかなかった。

そこは、万引きを武勇伝として語る不良、授業を崩壊させて教育実習の先生を泣かせる問題生徒、教師が生徒に注意すると学校に乗りこんでくるチンピラのような親など、まさにヤンキーマンガに出てくるような無法地帯だったのだ。自分ほとんどないところに来てしまったと思った。

とはいえ、中学時代に苦い思いをし、二度といじめられないようにしなくてはと考えていた私は、特殊警棒、メリケンサック、鉄の入った安全靴を通販で買い、つねに持ち歩くことにした。

そうして周囲に、「オレに手を出すなよ」と虚勢を張っていたのだ。

外資系企業にも マウンティングはある

はじめまして、黒坂^{くろさか}岳史^{たけお}です。

現在私は、フルーツギフト販売会社経営、ジャーナリスト、YouTuberという三本柱で事業を展開している。これだけ聞くとすごそうに感じるかもしれないが、そんなことはない。

冒頭のエピソードでわかったと思うが、もともと優秀だったとか、実家が太い家庭で育ったわけではない。周囲からなめられ続け、劣等感だらけだった。

ただ、そうした日々を送るなかで、人生のうまくいかないことの多くがなめられることに原因があると徐々に勘づいていった。

高校卒業後も、相変わらず勉強はできないまま、5年間ニートとフリーター生活を送っていた。

それで、人生の出遅れ感に焦りに焦った私は、心を入れ替えて独学で英語を猛勉強。国内の短大を経て、アメリカの大学へ会計学専攻で留学した。そして帰国後、数社の転職を経て、最後にたどり着いた会社が、東証プライム上場の外資系企業だった。

周囲は東大卒や海外有名大卒のエリートぞろい。凡人の私は最初の頃、会議で発言できず、仕事も遅かった。

ただ、これまで磨いてきた英語力、留学先で学んだビジネスマネジメントや会計学、そして過去の財務経理職の知識とスキルを買われ、チェンジマネジメント、経営企画プロジェクト管理の仕事を任せてもらった。

そうして様々なチームを回って業務を頼む役割になったのだが、そこで外国人社員になめられ続けた。資料を依頼しても期日を守ってもらえない。話しかけても無視される。陰湿なことをするのは日本人だけかと思っていたが、そんなことはなかった。

「お前は下に見られてるんだよ。こういうのはな、なめられたら終わりだ。嫌われてもしつこく取れるまで食らいつけ」

そのとき、なめられっぱなしの中高校時代を思い出した。それから、上司に言われたとおりに、提出されるまで毎日毎日催促を繰り返した。イメーは、人気の漫画家の家に泊まりこんで、原稿をもぎ取る編集者みたいな感じだ。

すると、相手は「しつこくて仕事が進まない。こいつは無視できないからさっさと出そう」と認識してくれたようで、それ以降は私の顔を見るとサッと期日前に対応してくれるようになった。

ふるまいを変えると なめられなくなる

こうした経験を通じ、私はビジネスでも私生活でも、相手からなめられないための姿勢を確立する必要性を痛感した。そうした失敗と修正の積み重ねが、今の私の仕事や発信の軸になっている。

学生時代も、社会人になってからも、「いい人でいよう」「愛される人物になろう」と下手に出た結果、いじめられたり、都合よく使われたりした。しかし、強い姿勢を示し、妥協しない態度を取るようになってからは、相手の態度も一変した。

今では自分をなめてくる人はほとんどいなくなったのだ。

なめられるか、なめられないかで、人生の方向は大きく変わる。

本書では、私が現場で学んだなめられない技術を、原理から具体的な型、そして実践法まで体系的に整理した。

これを通じて、読者が人間関係で損をしないための武器を手にしてほしいと考えている。

この本の かんたんな活用法

本書の活用の仕方と構成について触れておく。

なめられなくなる技術を段階的に身につけられるようにしてあるので、基本的には、最初から順番に読んでいただいたほうがいいだろう。

とはいえ、「自分もこんな嫌な目に遭ったことがある……」「身近にこういうなめたやつがいる!」と感じるエピソードもあるだろう。目次をめぐってみて、気になったところから読んでもらっても問題ない。

本書の構成については、具体的には次のようになっている。

【序章 「なめられる」は損である】では、日本人は基本的に腰が低く、なめられる損失に鈍感であるため、なめられるといかに損をするかということについて、しっかりと解説している。

続く【第1章 なめられる人の実態】では、具体的な損失の内容。そして、なめられやすい人がどういうものなのかについて書いた。

【第2章 絶対に「なめさせない」技術】では、なめられなくなる技術について書いた。今まさになめられて困っている人は、前の章を飛ばして、まずここを読んでもらってもよいだろう。

【第3章 なめてくるバカの頭の中を理解する】では、なめてくる側のメンタリテイについて。【第4章 なめられるケーススタディ】では、実際の悩みごとを取り上げているので、これまで本書で解説してきた考え方や技術が、より身近に理解できるようになっていく。そして【第5章 なめてくるバカへの反撃】では、実際になめられた際取るべき、効果的な反撃について解説している。

また、ある程度まとまった項目ごとに、重要なポイントを整理した「まとめ」を用意しているので、理解を深めたり、復習したりするのに活用してほしい。

加えて、立場によって何が正しいかが変わる、炎上しやすいテーマを扱っているた

め、冷静さを取り戻すために別視点のコラムも用意してある。

なめられなくなることで 得られるメリット

最後に、この本で得られるメリットについてお伝えしたい。

そもそも、なめられる人生とは何か。それは、自分の時間や労力を相手に奪われ続ける人生である。理不尽な要求に振り回され、本来注ぐべきことに集中できず、気づけば人生の主導権を他人に握られている。

なめられない技術を身につけることで、自分の時間・選択・尊厳を取り戻すことができる。「相手との対等な関係」はなめられているかぎり、永遠に獲得することはできないのだ。

なめられなくなること何を得られるのか。

第一に、人間関係が劇的にラクになる。無理な要求を突き返すことができ

ば、「便利屋」として扱われることはなくなり、対等な関係が築ける。

第二に、仕事での評価が変わる。意見をはっきり述べられる人は信頼され、責任あるポジションを任せやすくなる。

第三に、自分への信頼感、すなわち自己効力感が高まる。相手に振り回されず、自分の判断で行動できるようになるからだ。

本書で学ぶのは、たんなるテクニックではない。人生を取り戻すための姿勢そのものだ。

誰かの顔色をうかがって生きるのではなく、自分の意思で舵かじを取る。その感覚は、人間関係だけでなくキャリア、家庭、さらには心の健康にまで波及する。

本書を読み終えたとき、読者が「これからはもうなめられない」と心の底から確信し、堂々と自分の人生を歩みだすきっかけになることを願っている。

はじめに

いじりに対応できず転落人生

外資系企業にもマウンティングはある

ふるまいを変えたとめられなくなる

この本のかんたんな活用法

なめられなくなること得られるメリット

序章

「なめられる」は損である

「なめられる」の真理① なめられると人生で損をする

マウント行為は人間の本能／日本人は「性善説」を信じている／一度でもなめられると標的にされる

「なめられる」の真理② 愛されるより恐れられよ

素人はとことん付けこまれる／おだてられる人も付けこまれる／

人間は、愛するものを傷つけ恐れるものを丁寧に扱う

まとめ 「なめられる」の真理

第1章

なめられる人の実態

なめられると失う5つのもの

1時間 2お金 3自尊心 4権威性 5人脈 / それでもなめられていいのか

まとめ なめられると失う5つのもの

なめられやすい人の特徴

1弱腰の人 2反撃しない人 3権威がない人

4見た目が華奢な人 5話し方が変な人 6仕事道具がしょぼい人

まとめ なめられやすい人の特徴

コラム 少しでも冷静な別視点 なめられたほうが得と言う人へ

「なめられる」と「親しまれる」のは違う／浮気をするのは信頼してるから？

なめてきた相手には質問すればいい／なめられることの真のリスク／インフルエンサーはなめられてもいい

絶対的に「なめさせない」技術

絶対に「なめさせない」技術① 自分を安売りしない
人は無償や安く提供されたものを大事にできない／交渉するとう武器／給与交渉の材料にする

95

絶対に「なめさせない」技術② クレーム・言いがかりははね返す

相手のふるまいを「鏡写し」する／怖い上司への対処法もクレーマーと一緒に

102

絶対に「なめさせない」技術③ 約束を守る

小さな約束でも徹底して守る／約束を守ると貸しが作れる

108

絶対に「なめさせない」技術④ スペシャリティを持つ

欠点があっても許される／英語はコスバのいいスペシャリティ

112

絶対に「なめさせない」技術⑤ 断言する

なめてくるやつには選択権を与えない／不確定であっても言いきる勇気／期待されている答えを理解する／条件を提示して厳密に主張する

117

絶対に「なめさせない」技術⑥ リスクを伝える

ダメな部下にはリスクを伝えよ／上司が叱らなくなったことの弊害

125

まとめ 絶対になめさせない技術

129

コラム 少しでも冷静な別視点 ぶつかるか、スルーするか

130

なめてくる相手の見きわめ方／ぶつかるべき相手への対処法／スルーすべき相手への対処法／1即ブロック／2会話を広げない／なめられるかどうかはこちらが決める

なめてくるバカの中の頭を理解する

なめてくる人は全員ザコ

141

発信者情報開示請求を連呼する人／なめてくるやつはだいたい口だけ

なめてくるバカ バターン① 年下

146

年下がなめてくる理由／スペシャリティを見せつける／

年下相手でも笑って流さない／質問ならハワハワにならない

なめてくるバカ バターン② お客様

154

相手を選ぶ権利は売り手にもある／「安くしろ」への対処法／まともな人は値下げ交渉しない

なめてくるバカ バターン③ 承認欲求ゾンビ

161

承認欲求を満たすためのマウント／承認欲求ゾンビはスルーせよ

なめてくるバカ パターン④ 年上

年上がマウントを取りたくなる訳／年上からなめられない技術

なめてくるバカ パターン⑤ 非礼に気づかない人

失礼すぎるにわか／コミュニケーションで無礼になってしまっ

なめてくるバカ パターン⑥ なめられたくない人

傲慢マウントでなめてくる／面倒な傲慢には付き合わない

まとめ なめてくるバカの種類

なめられるケーススタディ

悩み相談① 部下が調子に乗っています

対処法① 圧倒的な実力差を見せる／対処法② 愚痴を逃さず冷静に詰める／

対処法③ 責任を明確化する／対処法④ 最終手段「評価を下げる」

悩み相談② わがままな常連客

対処法① 一貫したスタンスで交渉に応じる／

対処法② わがままな客を特別扱いしない／対処法③ 一歩引いて共感を示す

悩み相談③ 友人が張り合ってくる

対処法① 塩対応／対処法② 距離を取る／友人を変えようとしらないこと

悩み相談④ 都合のいい女になってしまっ

対処法① 弱腰に見られない／対処法② 条件を示して交渉する／

対処法③ はっきり伝える・感情的に否定する

悩み相談⑤ 教えたがりなにわか投資家

対処法① にわかには放っておく／対処法② 冷静な視点でツッコむ／しょうもないバカは気にしない

悩み相談⑥ マウンティング厨

対処法① 褒め殺して対応／対処法② 塩対応も有効／対処法③ 時には論破で黙らせる

なめてくるバカへの反撃

反撃の作法① 理性で反撃する

ゲーム理論で抑止力を持たせる

反撃の作法② 損失を金額でとらえる

1 時間損失／2 心理的ストレス／3 金銭的・評価的な機会損失

反撃の作法③ 沈黙と視線で刺す

反撃の作法④ なめ行為を公開する

1 記録化／2 メールのCCに関係者を入れる／こまめな記録・共有は盾にもなる

反撃の作法⑤ 反撃のレベル設定

レベル1空気を読ませる／レベル2質問で返す／

レベル3記録化と共有で警告／レベル4正式な是正交渉または通報

まとめ なめてくるバカへの反撃

コラム 少しだけ冷静な別視点 なめられないためのA-I活用術

A-I丸投げ炎上が世界中で発生／A-I臭は嗅ぎ取られる／専門家がA-I丸投げで失うもの／
なめられないA-Iの活用術／A-Iとのシャドーボクシング／エビデンスの力でA-Iを超える

236

242

243

おわりに

260

「なめられる」は損である

なめてくるバカを黙らせる技術について解説していく前に、はっきりさせなくてはいけないことがある。それは、

「なめられる」は損である

というゆるぎない事実だ。

私たちは、あまりにもなめられることに慣れすぎたため、損していることに気づかなくなっている。それどころか、「なめられているかどうか気にするのはカッ」「なめられていたほうが人から好かれやすい」といった感覚さえ持っている。

だが、「なめられる」は損なのだ。カッ！いいか、人から好かれるかどうかはさておき、**合理的に考えて明らかに損なのである。**

この序章では、本題に入る前段階として、われわれが目をそらし続けてきた「なめられる」の真理に触れていく。

「なめられる」の真理① なめられると 人生で損をする

人生で損をしたい。そう思って生きている人はいないだろう。

そんなことは言われなくてもわかっている。あなたは今、そう思ったはずだ。

だが実際には、損する生き方を自ら選び取って生きている人は少なくない。なぜだろうか。

結論から言おう。彼らは、**他人からなめられるのを受け入れることで、人生で損をしているのだ。**

「いやいや、なめられているかどうかなんてどうでもよくない?」

「なめられたら不愉快だろうけど、損するとまでは言えないのでは?」

「なめられているかどうかを気にするなんて、まるで昭和のヤンキーみたいじゃないか」

そんなふうにしたかもしれないが、いったん待つてほしい。

たしかに、なめられないように虚勢を張るのはカッコ悪い、なめられていたほうが得だ、という考え方もわかる。

だが、なめられることでもこうむる損失を軽く見るべきではない。それは人生に大きく影響を与えるのだ。

マウント行為は 人間の本能

そもそも、相手を見下し、マウントを取って、自分に都合よく動かそ

うとする行為は、多くの動物にとって本能的なふるまいだ。人間も動物

である以上、そうしたマウントの取り合いから逃れられない。

たとえば、次のような扱いを受けている人を見かけたことはないだろうか。もしくはあなたは自身、扱われたことはないだろうか。

- ・ いつも面倒な仕事を押しつけられる
- ・ 周りと比べて扱いが雑
- ・ 遅刻されてもお詫びされない
- ・ 真剣に話を聞いてもらえない
- ・ 仕事の成果を正當に評価されていない

これらは、なんの落ち度がなくとも、なめられているというその1点だけで、こうむる可能性がある実害例だ。

理不尽すぎる? ありえない? そのとおりなのだが、あなたも経験上知っている

はずだ。会社や学校のようなちゃんとしているはずの組織であっても、こうした理不尽が当たり前のように横行していることに。

改めてあなたの周りに目を向けてほしい。いつも損な役回りを押しつけられる人はいないだろうか。その人がその扱いになっっているのは、どんな理由があるだろうか。

- ・やさしそうなので、無理をお願いしても断らなそう
- ・弱そうなので、言うこと聞きそう
- ・いつもニコニコしていて、怒らなそう

この程度のあいまいな理由で「なめてもいい人」と認定され、不遇な立場に追いやられているのではないだろうか。

私は、これまでなめられて損をしてきた。20代前半は、学歴のなさからなめられてきた。英語の資格を取って働くようになってからなめられる機会は減ったものの、今

度は外国人の同僚や顧客から、日本人ということになめられるようになった。起業してからは、実績が浅いことでなめられ、時間的にも金銭的にも、取り返しつかない損をしてきた。

こうした経験をしてきたからこそ、なめられることの不利益を強く主張していきたいと考えているのだ。

日本人は「性善説」を信じている

そもそもの話だが、日本人はなめられることへの感度が低い。

なめられても気づかない。気づいてもうまく怒れない。そうして愛想笑いを浮かべてうやむやにしてしまう。

日本人の、なめられることへの感度が低い理由は、「性善説」を信じている人が圧倒的に多いからだ。

ここで言う「性善説」とは、「人はだれしも善人」とまでは考えていないとしても、

家族、友達、職場の同僚は基本的にみんないい人ととらえ、人を必要以上に信頼しようとしてしまっただけだ。

そうになると、嫌な目に遭わされても、「悪い人なんてそうそういないでしょ」とか「扱いが軽い気がするけど自分の被害妄想？」という具合にとらえようとしてしまうから、なめられたときに実感がわかない。

結果として、さんざんなめられ、取り返しつかない実害をこうむって初めて、ようやく怒りが爆発することになるのだ。

一度でもなめられると 標的にされる

「なめられても気にしない」と言う人がいるが、そうした態度はおすすめしない。

というのも、一度でもなめられるポジションに落ちると、相手は何度でもなめてきて、その度合いがエスカレートしてくるのだ。

それだけではない。そうした光景を見て「ああ、こいつはやり返してこないんだ」と触発された人々が集まって、さらに多くの人たちがマウントを取ろうとしてくるのである。

SNSなどで炎上騒動を見たことがあるだろうか。なんらかの経緯で「たたいてもいいターゲット」だと多くの人に認知されると、次々と有象無象が集まってきて、正義の名のもとにたたきまくる。こうした炎上騒動は完全に、なめられているからこそ起きることだ。

仮に、相手がコワモテのチンピラとか敏腕弁護士だったら、だれもそんなことは絶対にしたくない。反撃が怖いからだ。

炎上騒動では、「反撃しない／反撃できない」と思われることがさらなる炎上を招くのだ。

なめられても損しないというのは大間違いだ。なめられると間違いなく大損するのだ。

愛されるより 恐れられよ

「なめられる」ことのもう1つの真理は、ちょっと長くなるのだが、なめられて損をしてきた私自身のエピソードを紹介することで示したい。

素人はとことん 付けこまれる

10年ほど前、私は、週末起業で事業を始めた。

どんな事業を始めるうえででもとりあえず欠かせないのが、ウェブサイトだ。今は

コーディングの知識がなくてもワードで文章を打つ感覚で簡単にウェブサイトが制作できるが、10年前は事情が違った。制作業者に依頼をして作ってもらうか、イチから自分で技術を身につけるのがまだまだ一般的だった。

知識ゼロから技術を身につけて事業を始めるのでは時間がかかりすぎる。そう考えた私は、外注することにした。

そんなわけで私は、なけなしの貯金から30万円を支払って、業者に制作を依頼した。その業者は調子よくサイトの制作を進めてくれて、デザイン技術も素晴らしかった。すべてが順風満帆に進んでいる。そう安心しきっていたある日、唐突に業者から連絡があった。

「本日で会社をたたむことにしたので終了となります。続きは他の業者に頼むか、自分で作ってください」

あまりにも急な話だった。

今改めて考えてみると、計画倒産だったんじゃないかと思う。夢と希望を託してい

たのに、独立の船出でとんでもない目に遭ってしまった。

とはいえ、泣き言を言っても始まらない。意気消沈しつつも私は、即日で別の制作会社を探した。そうして、もうだれでもいいので完成させてほしい、そう思って泣きつくように、東京のとある制作会社に行き着いた。

今回は前回の反省をいかして、支払い後に逃げられないよう、社歴が長くて簡単に潰れないところ、というのを条件に入れていた。過去の制作実績を見るとしっかりしているように感じる。よし、ここにしよう、私は即決した。

これまでのトラブルも交えつつ事情を説明し、「こちらは完全に素人なので、すべてをお任せできる業者を探していた」と伝えると、社長は体育会系のビジネスマンで「当社に任せてください」と胸を張ってくれた。

その雰囲気にも頼もしさを感じ、すぐさま再び30万円を支払い、ここをこういうふうにつくってください、と事細かに文書化した要件を渡してお願いをした。

3ヶ月後、「できました」と連絡を受けて見せられたサイトを見て、私はイスから転げ落ちるほど驚いた。

驚いたというのは、悪い意味である。お願いしたものはかけ離れた出来栄えになっていたので。

たとえば「背景は黒で、文字は白」とお願いしていたのに、「背景は透明感のある淡い白を基調とし、文字は高級感のある黒色を採用しました」と、まったく逆の説明が書かれていた。いろいろと言いつい訳がましく書かれてはいたが、素人目に見ても、背景が白、文字が黒という初期設定のままだった。

その他、お願いしていた機能がことごとく無視され、他社で使っていたであろう機能の流用も散見された。今ならワードプレスの5000円くらいで買えるテンプレートテーマ以下の出来だった。

あまりにもひどすぎると感じ、お願いしていたとおりに作ってほしいと頼んだところ、「それでは作り直しにさらに30万円をいただきます」と言われて絶望した。

自分はウェブ制作の素人で、技術的なことはわからない。でも、完成イメージはしっかり伝えていたし、イメージとかけ離れていたものを出されても到底納得できるわけがない。

しかし、当時は自分も若かった。話が違っていると相手と交渉する力もなく、泣き寝入りするしかなかった。結局、独学で自分でウェブ制作をした。

おだてられる人も 付けこまれる

また別のエピソードでも、私はなめられて損をこうむった。

始めた事業が曲がりなりに軌道に乗り出したあるとき、テレビ番組から出演の声がかかった。

テレビ制作会社から「番組の企画について」と電話連絡が入った。そして、「あの〇〇の有名番組に出演いただくことになりそうです。出演料は△△で……」という話をされた。

喜び、有頂天になってしまった私は、自分が知っている情報をペラペラとしゃべった。相手も、とにかく自分をおだててくる。「いやあ、さすが専門家の深い知見で素晴らしい」と。自分はますます調子に乗って1時間、2時間と話し続けた。

翌日も電話がかかってきたので同じように話したのだが、途中から雲行きが怪しくなってきた。出演の具体的な話がされないのである。もしかして自分は情報を抜かれているだけでは？ と感じてきた。

その予感はいよいよ的中する。後日、自分が話した内容を元にした番組がオンエアされていたのだ。

いやいやさすがに被害妄想じゃないのか、と思われるかもしれない。だが違う。自分しか知りえない体験談を「詳しい専門家の証言によりますと……」という体で紹介されていたのだ。

結局、自分は相手の手の上で踊らされ、都合よく情報を抜き取られて、番組制作のネタ作りに利用されていただけだった。もちろん出演もできず、ギャラもない。完全

になめられていたのだ。

人間は、愛するものを傷つけ 恐れるものを丁重に扱う

2つほど、私自身がなめられて損をした経験を紹介した。

私がなめられて損をしたのはこれだけではない。生まれてから今日に至るまで無数にしてきた。とはいえ、そんなふうになめられ続けてきたからこそ、学ぶことができたことがある。

1つめのエピソードでは、制作業者から**素人だとなめられたことで手を抜かれてしまった**。「わからないので、信じてお任せします」と言ってお業者さんをお願いしてしまったが、これは「相手は善人」という性善説に根ざした、とてつもなく危険なギャンブルだった。そして見事に私はこの賭けに負けた。

テレビ出演のエピソードでは、専門家として話をする以上は、私に無料奉仕なんてする義理はなかった。ボランティア活動ではないのだから、考えてみれば当然の話だ。それにもかかわらず、浮かれた私は、無料奉仕してしまったのだ。

この出来事以降、テレビ関係者から連絡が来ても、仕事として受けてからしか話さないスタンスに変えた。これを書いている時点でトータルで地上波の番組に6回出演したが、この件以降はすべて報酬を^{ほうしゅう}いただいて出演するように徹底している。

これら、なめられて損をした経験を踏まえて、残酷な真実を告げたいと思う。

極端に言えば、**この世は「利用する側」「利用される側」に分かれる。**

これはビジネスに限らず、人間社会すべてに通ずる真実だ。

だからこそ、自分が「利用する側」「利用される側」のどちらにいるのか、自分と相手のパワーバランスはどの程度なのか、とくに交渉事などをするときには意識を向ける必要がある。

だが、そのことをわかっている人も、多くの人が見落としてしまう盲点がある。

立ち読みサンプル
はここまで

それは、根っからの悪人で最初から「利用する側」に立とうとする人はめったにおらず、**善良そつな普通の人が、付き合いをするなかで少しずつ「利用する側」の度合いを強めてくる**ということだ。

そして、そうなってしまう原因が、なめられているからであり、もっと言えば、好かれようとしてなめられにいつているから、なのである。

私の体験を思い返してみても、根っからの悪人はいなかった。

私の下手に出るよつなふるまいが、相手を「利用する側」へと増長させたのだ。

先に例に挙げたウェブ制作会社も、テレビ関係者も、初めから私が毅然とした態度で交渉に臨んでいれば、対等の関係で話ができたはずだ。

実際、無料でのテレビ出演依頼があった際に「無料では受けられない」と断ると、ほとんどの場合、改めてギャラの支払いの提案があった。

「愛されるより恐れられよ」とは、政治思想家のマキャベリの思想を要約したものだ。

人間は悲しいことに、愛するものを傷つけ、恐れるものを丁重に扱う、という矛盾した行動を取ってしまう。つまり、行きすぎた信頼関係というのは、いつしか相手をぞんざいに扱うようになり、人間関係自体を腐らせてしまうのだ。

愛されてもいいが、それを求めすぎると必ずなめられる。だからこそ、相手に絶対に一定以上は踏みこませてはいけない。

マキャベリの言葉は、「なめられる」ことの残酷な真理を教えてくれるのだ。